

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

[児童考察]

地震が起きたら必ず机の下にもぐると認識している児童がいるかもしれないが、地震の時は、ものが「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に素早く身を寄せることが大切である。屋外にいるときも想定し場所や状況に応じて行動は変わるということに気付かせたい。

[児童考察]

地震や火事の時、子供は自分の判断で命を守る必要がある。難しい言葉を使わず一言で伝えられるため、年齢に関係なく理解しやすく、すぐに定着させることができる。

● 登下校中、大きな地震が起きたら？

上から落ちてきそうなもの、倒れてくるものに注意して、自分の身を守ろう！

ココが大切!

- 学校に避難したときは、おうちの人が迎えに来るまで学校にしよう!
- 家が壊れている場合は学校に避難しよう!

● 家にいるとき、学校が休みのとき、大きな地震が起きたら？

● 屋内にいたら？

- ぐらっときたら、机やテーブルの下にもぐろう
- 火が出ていたら、外に出て大声で人を呼ぼう
- 避難するときは、エレベーターを使わないようにしましょう
- もしエレベーターに乗っていたらすべてのボタンを押し、止まった階でおいて身を守ろう

● 屋外にいたら？

習い事や放課後の学童にいたら？

大人にしたがおう!

海や川の近くにいたら？

逃げる時間があるときは遠くへ！逃げる時間がないときは近くの高い場所へ逃げよう!

公園にいたら？

すぐに遊具から離れて身を守ろう!

ココが大切!

- 外に出かけるときは、おうちの人にどこへ行くかしっかり伝えよう!
- 家に帰れなくなったときは、むやみに移動せず、まわりの安全を確認したり、家族に連絡しよう。

[児童考察]

発災時、場所や状況によってとる行動が変わってくる。平常時であれば、落ち着いてどのような行動をすればよいか考えられるが、地震発生時は、ほとんどの人が動けなくなる。そのため、特に避難訓練時は、災害時のシミュレーションを具体的に想定するだけでなく、様々な場所での行動を想定できるようにする。

[エレベーターの説明]

全ての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りるのが原則だが、停止した階で慌てておろすのではなく、階の状況を見極めるのも大切。

②地震の時は閉じ込められている人も大勢いると予想される。救助がすぐに駆け付けられるとは限らない。焦らず冷静になり「非常用呼び出しボタン」等で連絡を取る努力をする。

※参照：消防庁防災マニュアル

[避難時のミニ知識]

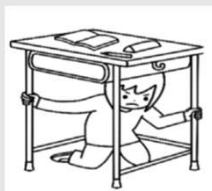
①小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口の確保をする。

地震がおさまってから、すぐに行動をすると、予期せぬタイミングで物が落下してることがある。そのため、しばらくはテーブルの下などへ身を隠しておく。

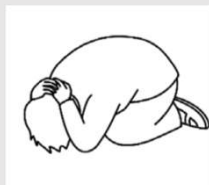
※参照：消防庁防災マニュアル

①命を守る3つのポーズ

1. サルのポーズ (地震：机がある時)



2. ダンゴムシのポーズ (地震：机がない時)



3. アライグマのポーズ (火事の時)

